

2022年度 環境フィールドスクール「長崎の大気環境の計測」

環境フィールドスクール「長崎の大気環境の計測」(担当:河本和明教授、中山智喜准教授)が2022年10月22日(土)に行われ、学生15名が参加しました。

最初に、標高1300mの雲仙ロープウェイの山頂(妙見岳)駅で、大気中の浮遊微粒子であるPM_{2.5}や霧を構成する粒子を計測する機器を見学しました。PM_{2.5}の計測は島原半島の複数地点で行っており、高度の異なる地点でPM_{2.5}を計測することは、越境大気汚染と近隣からの汚染の状況を知るための重要な基礎データとなります。雲仙ロープウェイの観測サイトでは、引率教員が共同研究を行っている熊本県立大学の教員や大学院生も合流しました。次に、小浜マリパークで火山性ガスの観測の様子を見学しました。火山性ガスを観測することで、地下の火山活動や温泉水の状況を把握できると期待されます。マリパークでは、足湯にも浸かり、火山の恵みを堪能しました。

また、一日を通じて、モバイル計測器を用いたPM_{2.5}などの大気測定を体験しました。移動のバスでは、間隔を空けて着席するなど新型コロナウイルス感染拡大に最大限の注意を払い、無事に終了することができました。



雲仙ロープウェイ山麓駅にて



小浜マリパークにて



2022年10月22日にモバイル計測器で測定したPM_{2.5}質量濃度の例